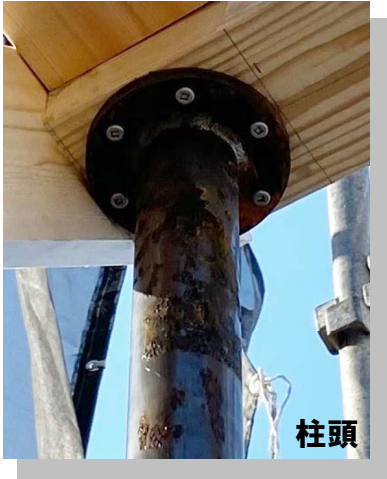
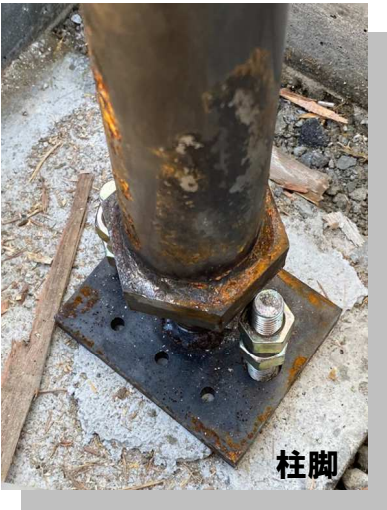


木造建築に美しく洗練された柱を

EXTRA SLIM 極細柱



EXTRA SLIM



極細柱HP



ARKHITEK
アルキテック株式会社



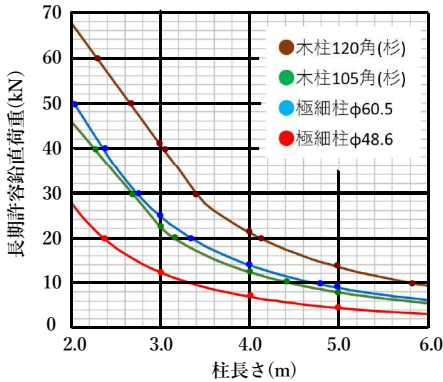
木造建築を軽やかに美しく見せる柱

大きな空間の中央に配置される柱
 リビングやダイニングに配置される室内の独立柱
 建物のファサードを決める玄関や大庇に使用される柱
 光を大きく取り込む特徴的な大きな窓
 眺望を決めるコーナー窓の隅部に配置される柱

これらにExtraSlimの極細柱を採用することで、木造住宅に革新的な美しい空間を演出します。



長期許容鉛直荷重-柱長さ関係グラフ



これ以上ない究極のスリムを実現

細い柱は構造的に座屈して壊れる心配があります。座屈に関しては、建築基準法施行令43条6項で有効長さλの最大値が定められており、λの計算は断面二次半径iと柱の長さの比で決まります。

$$\lambda = i/Lb$$

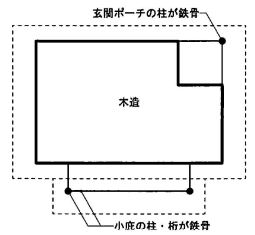
$$i = \sqrt{I/A}$$

極細柱は上記式により、理論上考えられる最小の柱直径を割り出し、究極のスリムを実現。

混構造ではなく、一般的な木造として建築確認申請が可能

軸力のみを支える柱であれば、鉄骨などの異種の材料を用いても混構造にはなりません。極細柱は地震力や風圧力などの水平力は支えないため、いつもと変わらない同じ手続きで建築確認申請を進めることができます。

また、スパンの長い梁や荷重負担の大きい梁材を鉄骨とする、あるいは鉄骨で補強をする場合や、雨掛りとなる部位（玄関ポーチやバルコニー、小庇など）に鉄骨を用いる場合など、その異種構造部分が水平抵抗要素（耐力壁）でない場合は、技術的には建築物全体を混構造ではなく木造として設計を行えばよい。（部材が一部異なる構造として扱う。）*



木質系混構造建築物の構造設計 P8より抜粋

図 1.1.3 部分的に鋼材を用いた木造の例

選べる材質と塗装

材質には標準のスチールの他に、サビに強いステンレス、軽量のアルミ
 塗装にはさび止めペイントの他に、サビに強い溶融亜鉛めっき、無塗装の黒皮をご用意しています。

4つの異なるサイズ

柱の長さ・支える荷重によって、4つの異なるサイズの柱をご用意しています。採用できうる究極の極細柱をご提案します。

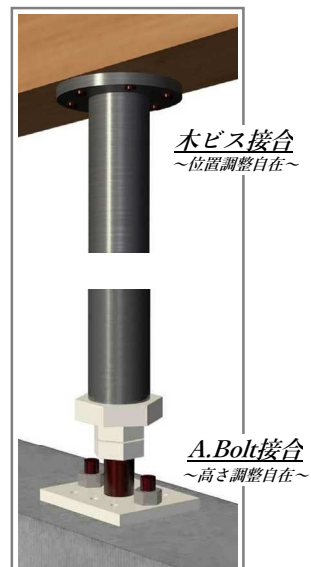


自在性と無駄を削ぎ落とした究極の接合部金物

木部には専用ビスで取り付け、柱脚は高さ調整ができる金物を使用

■お問い合わせ

アルキテック株式会社 〒171-0014 東京都豊島区池袋2-55-2
 TEL:03-6300-9860 FAX:03-6300-9865 mail: info@arkhitek.co.jp



極細柱接合部